

秦野市行財政調査会第5回行革推進専門部会  
はだの行政サービス改革基本方針(案)に対する御意見等

資料2

No.	該当箇所	第5回行革推進専門部会での委員の御意見等	御意見等の反映状況(事務局)
1	はじめに、8ページ	「真に必要な行政サービス」と表現があるが、持続可能な行政サービスの質を高めることが、「真に必要な行政サービス」であり、表現が二重になっているため、分かりにくい印象がある。	記載を元に戻します。 ・はじめに…「真に必要な行政サービスの質を高め、」を削除します。 ・8ページ…「3(1)基本的な考え方」で記載した「真に必要な行政サービスの質を高め、」を「3(2)「縮充社会」の実現を目指して」の部分に戻します。
2	はじめに、8ページ	基本方針内に入れ込めないかもしれないが、「真に必要な行政サービス」というのは、行政がやるべきサービスを限定していく趣旨が含まれていると思うが、役割分担という観点でいくと、行政サービスが限定されて、質の低下にもみえると思う。 今回の改革のキーワードとして「協働」が出ているところで、「公共的サービス」を行政だけが担うのではなく、市民も含めて、豊かな公共を目指していくことがポイントになると思う。 行政サービスとしては限定していく側面があるが、公共サービスとしては協働して豊かになっていくところが、「縮充社会」のイメージにマッチすると思うので、そういった考え方を持っておいた方が良いと思う。	今後、御意見のあった視点も持って改革を推進していきたいと考えます。
3	はじめに、8ページ	「真に必要な行政サービス」が「持続可能なサービス」に置き換えられれば、SDG sという大きな視点で考えると、この視点で実行計画を含めても、宙ぶらりんになっているような印象がある。 「持続可能なサービス」をSDG sに絡めるならば、経済、社会、環境の3つの側面において特に行政サービスの質を高めていくということだと思ふ。 SDG sを書くのであれば、そうした相互の関連性を意識することが必要だと思ふ。	SDG sとの関連性については、実行計画において、実行計画の取組みがSDG sのどのゴールに関連しているか示す予定です。
4	1ページ	「質的向上」という表現を修正するならば、3ページと8ページにも同様の表現がみられるため、表現を統一した方が良い。	3ページの記載を元に戻します。 「質的向上を意識した、～」の表現とします。
5	3ページ～7ページ	「本市の状況」や「社会情勢の変化」をまとめているが、秦野市特有の問題点がない。地域のことであったり、新東名高速道路の開通による人口流入のことであったり、特有の視点があると思う。	さらなる行財政改革の必要性として、本市の状況をまとめている中で、本市特有の課題について言及できませんでしたが、今後、御意見のあった視点も持って改革を推進していきたいと考えます。
6	4ページ、12ページ	「新型コロナウイルス感染症の流行の長期化が、～」とあるが、長期化という表現は、行政では、短期、中期、長期という表現の中で、5年以上を指す言葉であるため、表現を改めた方が良い。「長引く～」であったり「収束が見えない」という表現をするか、「影響の長期化による経済構造の変化」を表現するかどちらかということになるが、前者の表現の方が良いと思う。	「長期化」という表現を「長引く」に修正します。
7	4ページ、12ページ	新型コロナウイルス感染症について、この計画を3年後に読んだ際に、新型コロナウイルス感染症が収束しているか、している場合は、その後の状況を考えていくことになると思うが、3年後を表している表現としては合っていないと感じる。アフターコロナの状況を含めて表現した方が良い。	上記意見で修正し、新総合計画の表現に合わせ、先行きは不透明という表現にとどめることとします。
8	11ページ	「担い手をつくる改革」の担い手を育成するだけでなく、協働・連携していくことがゴールであるので、それを強調した方が良いと思う。	「担い手をつくる」には、既にある担い手に任せていくことと新たな担い手を育成するという両方が含まれ、柱名の下に改革の方向性として、「多様な主体との協働・連携」がありますので、表現はそのままとさせていただきます。
9	12ページ	「計画的な予算編成を行います。」という表現は、改革内容をミスリードしやすい。予算編成に限定されない企画立案の面での改革もあると思うため、表現を見直した方が良い。	「計画的な」という表現を削除することで、限定されるイメージをやわらげたいと考えます。
10	13ページ	計画体系イメージでは、行政サービス改革基本方針が、他の個別事業実行計画と同列に記載されている。計画はそうかもしれないが、行政サービス改革基本方針が他の個別事業実行計画を策定するうえでの方針となることから、体系イメージとしては、個別事業実行計画の上であったり、横断的な位置づけにあるように思う。	個別事業実行計画と連携する位置付けとして連携を強調するため、図を修正します。
11	13ページ	庁内の推進体制を記載しているのだと思うが、市民との関わりが弱いと思う。庁内でフィードバックしていくだけでなく、市民に評価等を公表し、問題意識を共有していく視点が必要だと思ふ。	14ページの進行管理の最終段落で、進捗状況及びその成果について、市民に公表し、問題共有を図ることを記載しています。
12	14ページ	進行管理で、PDCAサイクルのスピード化について記載されているが、即時性を高め、次年度予算に反映するという部分で、どこまで前倒しするのか、分かりにくい。年間スケジュールを表にまとめるであったり、「PDCAサイクルを早め、～」という表現を、何か月前倒しで行うか明確にした方が良いと思う。	年次の具体的なスケジュールについては、第4回行革推進専門部会の資料の中で示したとおり、実行計画の中で図を示す予定です。 「PDCAサイクルを1年早め、～」に修正します。
13	14ページ	PDCAサイクルとして今まで無かった取組みを行っていくため、本部会で意見されてきたことを綿密に示すようにして、所管課で進行管理できるようにした方が良い。	実行計画の進行管理の中で考え方が定着できるように進めていきます。